

始良・伊佐地域青少年育成だより

発行
始良・伊佐地域青少年育成推進協議会
第36号 平成30年7月

〒899-5212始良市加治木町諏訪町12
始良・伊佐地域振興局総務企画課地域振興係
TEL 0995-63-8109 FAX 0995-63-8108
HP 鹿児島県始良・伊佐地域振興局 健康・福祉→検索

「平成30年度県青少年育成県民会議」総会開催 「吉松孝義氏(伊佐市)」・「湧水町豊祭相撲保存会」が 県民会議表彰を受賞！！

標記総会が、本年度も6月8日(金)に県青少年会館で開催されました。県下各地から多数の会員が集い、平成29年度の事業報告・収支決算及び平成30年度の事業計画・収支予算等を真剣に協議し、承認しました。

その中で、かねてから青少年の育成に関し優れた活動を行い、他の模範となる7名の個人と3団体が表彰されました。

当地域からは、個人の部で伊佐市子ども会育成連絡協議会会長 吉松孝義氏、団体の部で「湧水町豊祭相撲保存会」が表彰を受けました。

議事の方では、執行部から提案された昨年度の事業報告と事業収支決算及び本年度の事業計画と収支予算が、全会一致で承認されました。

その後は、青少年希望の家「土井ホーム」代表の土井高德氏が「ちょっとしたストレスを自分ではね返せる子の育て方」と題して講演をされました。



団体の部「湧水町豊祭相撲保存会」



個人の部 伊佐市子ども会育成連絡協議会
会長 吉松孝義氏

昭和57年に、豊祭相撲を通して青少年の健全育成と文化の灯を守っていくことを目的に設立された。平成17年の新町施行とともに「栗野町豊祭相撲保存会」から「湧水町豊祭相撲保存会」に名称を変更した。大会には200人が参加する大規模な行事である。町内16カ所で練習もする。

昭和62年から地域の子ども会育成会長・菱刈町子ども会育成連絡協議会会長等を歴任され、現在は伊佐市子ども会育成連絡協議会会長として子ども会活動の充実発展に尽力されている。また、郡PTA連絡協議会会長や校区コミュニティ協議会会長・市補導センター運営委員会会長・NPO法人代表等として地域の活性化にも活躍中である。



「平成30年度始良・伊佐地域 青少年育成推進協議会」総会開催

標記総会を、本年度も6月28日（木）に始良・伊佐地域振興局で開催しました。青少年育成市町民会議会長（各市町長）をはじめ、教育事務所長や警察署、各市町社会福祉協議会、PTA連絡協議会等関係団体の代表、青少年育成コーディネーター、地域振興局長等51人が出席して熱心に協議しました。総会冒頭で、会長の中重真一霧島市長が、「本年は、明治維新150年の節目の年を迎えました。本県は、西郷隆盛や大久保利通といった、近代国家・日本の形成に大きく寄与した先人たちを数多く輩出しました。そして、今なお幕末の混乱期に未来を切り拓いた若者を育てた教育的風土や、地域全体で子どもたちを育てるといった伝統的な地域の教育力が継承されております。



『明治維新』という時代の大きな変革期における郷土の先人たちの志や偉業を見直し、その意義を改めて考えると共に鹿児島の魅力を広く県内外に発信するための様々な取組も展開されております。当議会においても、それらを踏まえながら、青少年育成県民会議をはじめ、家庭や学校、地域等と一体となって、青少年の健全育成に取り組んで参りたいと考えております。」とあいさつされました。

議事では、平成29年度事業活動報告、平成30年度活動方針及び事業計画が承認されました。本年度も「郷土に学び・育む青少年運動」事業推進のため、「かごしま地域塾」や「明るい家庭づくり実践講座」など九つの事業を積極的に推進して参ります。

また、青少年健全育成対策の現状・課題等については、始良・伊佐教育事務所や四つの警察署・各市町の青少年担当課から、取り組み状況や課題等の報告がありました。最後に、平成30年度ニッセイ（日本生命）財団「児童・少年の健全育成助成」団体の「大口子ども劇場」森田奈美代表がその活動状況を発表されました。（活動の内容は本だよりの3ページを参照）32年目になる活動は素晴らしく、芸術鑑賞を中心とし、さらに田植えやキャンプなどの体験活動も加え、さらには年間を通した積極的な活動に出席者は感動で一杯でした。

また、青少年健全育成対策の現状・課題等については、始良・伊佐教育事務所や四つの警察署・各市町の青少年担当課から、取り組み状況や課題等の報告がありました。最後に、平成30年度ニッセイ（日本生命）財団「児童・少年の健全育成助成」団体の「大口子ども劇場」森田奈美代表がその活動状況を発表されました。（活動の内容は本だよりの3ページを参照）32年目になる活動は素晴らしく、芸術鑑賞を中心とし、さらに田植えやキャンプなどの体験活動も加え、さらには年間を通した積極的な活動に出席者は感動で一杯でした。



青少年の健全育成のためみんなで定着させましょう！！



毎月の第三土曜日は、「青少年育成の日」
毎月の第三日曜日は、「家庭の日」
毎月の19日は、「食育の日」「育児の日」



平成30年度ニッセイ財団児童・少年の健全育成助成団体 紹介

ニッセイ財団は、毎年「広がり、元気っ子活動」として、地域において定期的・継続的に実施している子どもたち自身が主人公となって行う自然体験・仲間づくりや文化の伝承活動や地域の子育て支援活動に対して都道府県知事の推薦に基づき助成し、活動の輪を広げています。平成30年度の助成団体に「大口子ども劇場」が決定したので紹介します。

大口子ども劇場

- (1) 代表者 森田 奈美
- (2) 設立年月 昭和61年12月
- (3) 団員数



幼児 11人 小学生 30人 中学生 14人
高校生 6人 大人 76人 計 138人

(4) 活動の趣旨

プロ劇団による芝居や人形劇等の鑑賞・創作劇の制作と演技練習等を通して生きる力や周りの人への思いやりを身につけさせることを目的とする。

(5) 主な活動

- 6月 定期総会・田植え
- 7月 マジックショー鑑賞会・定例会
伊佐市夏祭り参加
- 8月 高学年キャンプ、デイキャンプ遊び会
- 9月 人形劇鑑賞会（上・下学年）
- 10月 青少年育成大会出演・山登り・稲刈り
- 11月 人形劇鑑賞会（上・下学年）・定例会
- 12月 定例会 1月 定例会
- 2月 定例会 3月 定例会



森田奈美代表は「『素晴らしい芸術等の鑑賞を思い切りさせて、心豊かな子どもに育てたい！』という30年前のお母さん方の熱い思いを受け継いで頑張っています。近年増え続けるスマホ・テレビゲーム等に負けない生の体験場所・子どもたちが安心して遊べる『居場所』としても大切にしていきたいです。その活動の中で、友達への思いやりや豊かな想像力と生き抜く力も身につけてくれたら最高です。今回の助成団体としての決定は本当に有難く、感謝で一杯です。」と述べられました。



「第40回少年の主張鹿児島大会」に
篠原 真夏さん（横川中）と
宮田 航志さん（牧園中）さんが出場！！



このほど「第40回少年の主張鹿児島大会」の作品が募集され、県下の中学生が53校で4,622人応募しました。その中から学校予選を通過した優秀な作文80点が、県の一次審査に推薦されました。そこでは、最終の「少年の主張鹿児島大会」に出場する10点の優秀作文が選考されました。何とその10点の中に、上記2人の作文が入っていたのです。本当に素晴らしい事です。2人は、来る8月1日（水）に鹿児島市立甲東中学校で開催される本大会に出場します。2人の健闘をみんなで心から祈りましょう。



地域が育む山野っ子

伊佐市立山野小学校

1 学童疎開関係の歴史を学ぶ。

山野小学校は、終戦間近の学童疎開を受け入れたことが縁になり、修学旅行で西之表市立下西小学校と交流しています。修学旅行にあたり、子どもたちは山野在住の語り部である中村貞幸さんから、戦争時代の生活の様子を学習します。内容は、苦しかった時をみんなで助け合って生き抜いた日々のことです。平和の尊さや今の時代の豊かさに感謝しながら、子どもたちは修学旅行へと出発します。



3 地域の愛情を実感する。

山野小校区の石井子ども会は、子どもたちを地域の宝と考え、地域の育成者が年間を通して様々な活動を行っています。子どもたちの心身の健全な成長を願い、地域遠足や十五夜等を企画します。このような行事を通して、子どもたちはたくさんの方々に見守られて成長していることを実感します。郷土愛や感謝の気持ちが子どもたちの心に育まれていきます。



2 伝統芸能を学ぶ。

子どもたちは、校区に伝わる「石井鎌手踊り」の継承活動に取り組んでいます。

伝統芸能をなんとしても継承させたいという学校と地域の思いから、現在6年生の教育活動に取り上げ実践しています。

子どもたちは、保存会の方々に優しく手ほどきを受けながら、ふるさとを支える担い手としての使命感に燃えて活動に取り組んでいます。学習発表会で練習の成果を披露しますが、保護者や地域の方々に大変喜ばれています。6年生は5年生に踊りを引き継いで卒業していきます。



4 感謝の気持ちを伝える。

1年間様々な場面でお世話になった地域の方々をお招きして感謝集会を開きます。

子どもたちは、手作りの感謝状を作成しながら、たくさんの方々に支えられ、守られていることに改めて気づきます。「おはようございます。」のあいさつが「〇〇さん、～してくださいありがとうございます。」と変わってきます。まさに成長の証が確実に見えるときです。

子どもたちは、年間を通して地域の方々に関わり、地域のよき伝統や郷土を愛する心を学んでいます。次の世代を担う継承者が育ちつつあります。このような取組を現状に満足することなく、これからもさらに充実させていきたいと考えています。伊佐市立山野小学校長 郷原 光徳

伊佐市の青少年健全育成活動

「伊佐市ふるさと学寮」

1 ふるさと学寮の目的と状況

伊佐市では、家庭を離れ通学合宿体験を通して子どもたちの自主性、協調性、忍耐力や連帯感を養うために、各校区コミュニティ協議会が主体となり「ふるさと学寮」を行っています。

昨年は6月28日（水）から7月1日（土）までの3泊4日の日程で、12小学校区の小学4年生から6年生の173人が参加して、11箇所の校区公民館施設等で行われました。



伊佐市のふるさと学寮は、各コミュニティ協議会が企画運営し、支援者として多くの地域住民が関わっています。

校区それぞれで独自の活動を行っており、星空観察やもらい風呂体験、かまど炊飯やボランティア活動、ニューススポーツ体験なども行われました。

ふるさと学寮は、子どもたちにとっても地域の支援者にとっても楽しい事業であり、地域力の向上にも繋がっています。ふるさと学寮を体験することで、将来自分たちの地域に愛着や感謝の気持ちを感じられる大人に成長してもらえればと思います。

2 子どもたちの感想から

○料理や買い物が思ったより大変だった。お母さんが毎日していると思うと、今度から手伝おうと思った。

○お世話してくださった地域の方々や、参加させてくれた親に感謝して「ありがとう」を言いたいです。

○支援者が何人もいることに驚き、皆さん優しく楽しかった。習った料理を家で作ってびっくりさせたい。

○3回目の学寮で参加するたびに出来る事が増えた。ぜひ多くの人に参加してもらいたいです。そしていつか、私も支援する側で恩返しをしたいです。

○自分の校区に生まれて良かったと思った。校区の皆さんはとてもやさしくて、登下校中も「おはよう」「おかえり」と声をかけてくれます。家に帰ったら学寮で教わった事などを家族に話したいです。

○これからは、お父さんお母さんが疲れているときは洗濯や皿洗い、お風呂洗いなど進んでお手伝いをしてあげたいです。

○この学寮で協力する心や感謝する気持ちを学びました、地域の皆さん本当にありがとうございました。



3 主催者や支援者の感想から

○支援者を快く引き受けくださり「来年も協力する」と言ってもらえた。

○久しぶりに小学生と触れ合えてよかった。地域と学校の繋がりを作るのにも役だった。

○子どもたちが地域の方々の顔を覚え、あいさつをしてくれるようになった。お互いを知る絶好の機会となった。

○支援者にとって、いまだきの子どもを知る絶好の機会でした、学校と地域の連携にも繋がる。

○もらい風呂をしていると毎年いろんな子どもが来て楽しみだ。お礼のはがきを貰いとても嬉しかった。

○コミュニティ関係者、支援者が子どもたちを「地域の宝」として認識することが出来た。

○子どもたちの活動の中で先輩が後輩に教えている姿が見られ、郷中教育だと思った。



本年度も「明るい家庭づくり実践講座」実施！！

「鹿児島県青少年育成県民会議」と「県下各地域青少年育成推進協議会」が主催、鹿児島県と県教育委員会も共催で応援しています。「始良・伊佐地域青少年育成推進協議会」が地域内の団体・事業所等に希望を募り、本年度は、11の学校・団体が実施します。既に実施済みの2講座の様子を紹介します。

I 「西始良小PTA教育講演会」

- 1 日時 平成30年 6月 3日(日)
9時15分から11時15分まで
- 2 演題 「ふるさとを大切に、夢の実現に向けてがんばる人に」
- 3 講師 MBCレポーター 財津 三奈氏



4 講演内容・感想

講師は、当校区の出身であり、校区誕生に係るエピソードや父親の助言で天職であるレポーターになるまでの経過などを話されると、全員親しみを持って耳を傾けた。特に「夢・目標」をもってその実現に頑張ることの大切さは、ほとんどの保護者が目を輝かせて聞き入っていた。以下、出席者の感想である。「子どもに目標や夢を持たせることの大切さを改めて教えて貰いました。」
「ふるさと西始良の良さを痛感しました。」

II 「霧島市立国分南小PTA教育講演会」

- 1 日時 平成30年6月 9日(土)
8時15分から9時45分まで
- 2 演題 「子どもと親のコミュニケーション」
- 3 講師 武井内科クリニックスクールカウンセラー
臨床心理士 佐々木 浩介氏



4 講演内容・感想

講師は、「親子の関わり方」について語られ、「親は知らない素振りで話を聞く。」「少し大きさに誉めたりして自信を持たせる。」「無理強いをしない。」「問題解決より子どもの出来る事を増やしてあげる。」など、具体的な取り組みの方法を示された。「**分かりやすい！！**」と大部分の保護者が感心し、大満足の様子でした。



以下、出席者の感想です。
・叱ることも大切だと思いますが、それだけでなく、子どもにカウンセリング的な関わり方も出来るようになりたいと思いました。
・親も成長していきたいと感じました。つい、感情的になることがあり、講演を参考にして気持ちにゆとりをもって子どもに接したいと思いました。
・つい叱ってしまうことが多いなあと反省しました。子どもとの関わり方について考える良い機会になりました。

《既に実施した学校・団体名》
湧水町青少年育成市民会議 5月28日に実施
霧島市立牧之原小学校PTA 6月9日に実施
始良市青少年育成市民会議 6月29日に実施

始良市立西始良小学校PTA 6月3日に実施
霧島市立国分南小学校PTA 6月9日に実施

《今後実施予定団体名と予定月》



実施予定団体名	予定月	実施予定団体名	予定月
伊佐市立針持小学校PTA	9月	伊佐市立本城小学校PTA	11月
始良市立柁城小学校PTA	10月	伊佐市立羽月西小学校PTA	12月
伊佐市立羽月小学校PTA	10月	霧島市立木原小・中学校PTA	2月



始ちゃんと伊佐ちゃんの子育てコーナー



始ちゃん： K子ちゃんの「あいさつ」はどうね？「三段階あいさつ」の効果はどうだったかな？

伊佐ちゃん： すごい効き目よ！ あいさつ名人とすごい評判よ！ 有り難う！助かったわ！！

「今度は、約束した事が実行出来ないの困っているのよ。「ほら！約束したでしょう！」
と言うと直ぐ不機嫌になるのよ。良い方法はないかな？」

始ちゃん： 伊佐ちゃん 人がね、定めた通り実行するためには「3つの力」があってね、その力を発揮出来るように頑張らせると良いらしいよ。

伊佐ちゃん： ええ！ どういうこと？ 「3つの力」ってどんな力なの？

始ちゃん： 伊佐ちゃん それはね 「やる力」「やらない力」「望む力！」の3つなの！！ その意味は、実行するためには、「必ずしないといけない事」と「絶対してはいけない事」があり、その事を成し遂げられるかどうかは「本気で望むか」で決まると言う事だって。

伊佐ちゃん： じゃー 私はそのことを具体的に教えて、誉めたり励ましたりすれば良いのね！

始ちゃん： そう！そう！ 「必ずしないといけない事とはどんな事か。絶対してはいけない事とはどんな事かを詳しく教えて、しっかり守らせて行くのよ。」



そしてね、実行出来たら「お母さん 嬉しいな！」出来なかった時は「お母さん 悲しいな！」のどちらかで声かけしてね。是非 K子ちゃんとやってみてよ！

伊佐ちゃん： 分かったわ！ いい方法！！ 早速 家でもやってみるわ！ 聞いてみるもんだね。

青少年育成コーディネーターが 青少年育成指導員と学校訪問



昨年度途中から始めた青少年育成指導員が青少年育成コーディネーターを同伴しての学校訪問を本年度も継続しています。4月以降で指導員の訪問日に都合の良かった加治木正明さん・熊谷初男さん・美坂政勝さん・小山辰生さんの4名が、自分の居住地に近い福山高校・太田小学校・塚脇小学校・針持小学校・曾木小学校・湯之尾小学校・菱刈小学校・菱刈中学校等を訪問されました。訪問校では、学校長や教頭先生から、学校の経営状況や児童・生徒の頑張り、校区コミュニティ主催の青少年健全育成行事での生き活きとした活動の様子などを聞かれました。最後に、青少年育成コーディネーターの皆さんが感想を述べたり・お願いをされたりして終了しました。本当にわずかな時間ですが、校長・教頭先生は「本当に力強い背中押し」と大喜びでした。

2か月で5校を訪問された小山辰生コーディネーターは、「校長・教頭先生が本当に喜んで迎えてくださるので最高に嬉しいです。色々な会合では一緒になるけど話す時間も無い。わずかな時間でも膝を交えて語ると、教育への強い思いが汲み取れ、少しでも後押しを頑張らないと！の気持ちになります。」と述べられました。



青少年育成コーディネーターとは？

各市町に配置され、各市町の青少年育成の中核になり、各小学校区青少年育成組織へ健全育成活動の活性化方策をアドバイスしたり、各種青少年健全育成活動をコーディネートしたりするほか、各市町における青少年の健全育成に関する現状把握や関係機関・団体との連絡調整を行います。

